

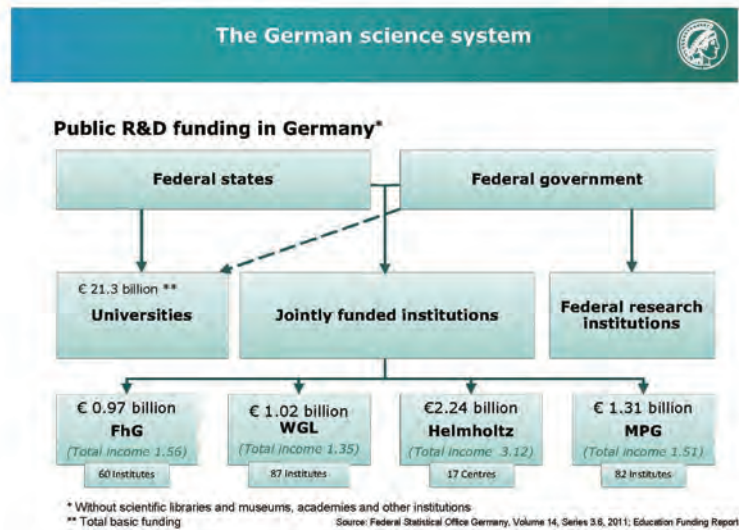
# ドイツの科学界における マックス・プランク協会

**ピーター・フルデ** マックス・プランク複雑系物理学研究所 名誉所長（ドイツ）  
Peter Fulde 浦項工科大学アジア太平洋理論物理研究センター 理事（韓国）



ドイツにおける科学へのサポートは非常によく組織されている。大学は、教育制度にも責任のある連邦州から資金提供を受けており、行われる多くの研究は連邦州と連邦政府によって設立された四つの機関によって強化されている。基礎研究を行うマックス・プランク協会、応用研究を行うフラウンホーファー協会、加速器のような大型装置を擁するセンターによって組織されるヘルムホルツ協会、ドイツ合併以降、主に旧ドイツ科学院の施設の併合によって急成長を遂げたライプニッツ協会があり、これはマックス・プランク協会とフラウンホーファー協会との間に位置づけられる。連邦州と連邦政府による四つの機関のための予算は全く異なる。ヘルムホルツ協会は90%が連邦政府予算であるが、マックス・プランク協会とライプニッツ協会は連邦州と連邦政府から、それぞれ50%ずつ受けている。フラウンホーファー協会に関しては、予算の50%を産業界との契約から得ている。

また、PTB（ドイツにおいて標準単位や計量の規制など特定の法的義務を担う、米国のNIST（アメリカ国立標準技術研究所）に相当する機関）のように連邦政府単独の資金提供によって運営されるものがある。



マックス・プランク協会の使命は、様々な研究分野の最先端で革新的・学際的研究を推進することである。マックス・プランクが「知は応用されるべきである」と語ったように、その成果によって経済及び人類の知見の充実に寄与することを目指している。

マックス・プランク協会の運営の特徴は：

- 世界中の傑出した科学者を採用する。研究におけるテーマ選択や手法においては彼らの自主性を重んじる。
- 柔軟で活発な研究ユニットを運営するために、安定的・長期的な公的資金を得る。
- 国際的な科学諮問機関により、研究の水準を厳しく管理する。
- 別事業体であるマックス・プランク・イノベーションを介して技術移転を支援する。
- 学際的、国際的研究を遂行する。

マックス・プランク協会の国際的姿勢は、以下の点に顕著に表れている。

169,000人のスタッフのうち、16.4%は国外出身者である（数字は2011年1月現在）。研究系のスタッフに限れば、その割合は33.1%、全研究所長では29.8%を占める。4,600人の若手研究者と客員研究者では、50%が国外出身者であり、博士研究員となるとその数は88.6%にもものぼる。また、博士課程の学生の約50%が外国からの留学生である。

マックス・プランク協会の“サイエンティフィック・メンバー”である273人の研究所長は、以下の三つの研究組織に属している。①化学・物理学・工学部門（50%）、②生物学・医学部門（40%）、③人間科学

